

# 1 公民一体型空間形成の取組み 昨年度の取組みのまとめ

## ■ 目的・ねらい

大街道という公共空間を舞台に、新しい公共空間の可能性や市民に喜ばれる活用方法の模索という課題を、公民の連携、協力によって解決していくことを目的として、実証実験や仕組みづくりについて検討を行った。



## ■ 実証実験の実施

大街道商店街での2回の実証実験を通して、滞留空間創出の重要性を確認

### 第1回 座り場（みんなのいす）と芝生広場（くつろぎひろま）

- ・ 時期：2015年10月24日（土）～11月1日（日）9日間 10:00～19:00
- ・ 場所：大街道2丁目 大街道商店街内（松山大街道商店街振興組合前）



### 第2回 座り場（みんなのいす）と交換型本屋（KAEBON）

- ・ 時期：2015年11月21日（土）～11月29日（日）9日間 10:00～19:00
- ・ 場所：大街道2丁目 大街道商店街内（旧ロック、橋本時計店前）



### 座り場の重要性の確認（市民の反応）

#### ○ 高い満足度

アンケート結果より、第1回実験・第2回実験と共に **90%以上の利用者が「よい」「とてもよい」と回答**。非常に高い満足度を得た。（第1回：95%、第2回：94%）

#### ○ 継続を求める声

アンケートの自由意見やヒアリング結果でも、年代・性別・利用者属性を問わず継続を求める声が多く、街なか空間活用における座り場を求めるニーズがとて高かった。

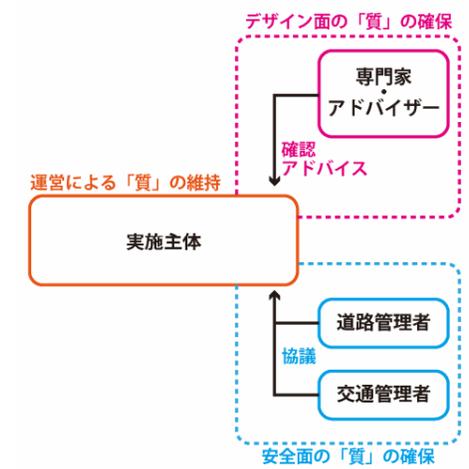
## ■ 常設化に向けた官民連携方策の検討

### 【質を維持・確保する仕組みとルールへの検討】

民間による座り場の管理・運営を行う場合に課題となる、質を確保する仕組みと、デザインの質を確保するための規定を設定した。

- |                  |   |
|------------------|---|
| 存在を認知されやすく魅力的である | 1) 一定のまとまった空間をつくる<br>2) リビングを思わせる設えをする<br>3) 人を呼ぶコンテンツを仕掛ける   |
| 利用しやすい仕掛けがある     | 1) 外部からの入りやすさを高める<br>2) 自由に使える場だとわかりやすく伝える<br>3) 多様な空間をつくる    |
| 居続けたい心地よさがある     | 1) 密度と間隔を両立させる<br>2) 居心地の良さをつくるパフファを入れる<br>3) 人の手入れを感じる空間をつくる |

質を規定するポイント



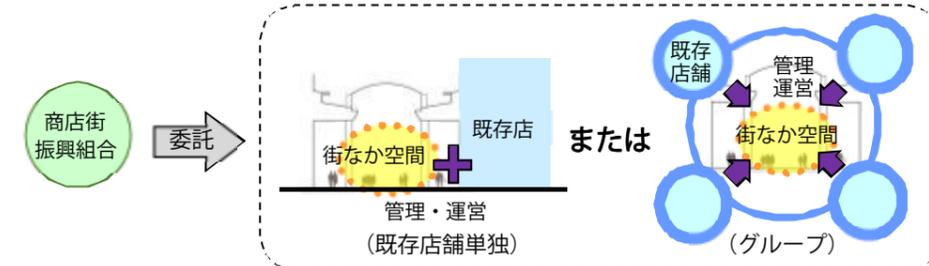
「質」を確保する仕組み

### 【持続的な管理・運営手法の検討】

商店街や管理者に関心がある店舗等との意見交換を行いながら、実現化の方法を比較検討し、そのうちの1つの手法を選定、要項や設置基準を設定し、公募による管理・運営事業者の選定を行った。

#### 特定管理者に委託（運営既存店舗に委託するタイプ）

商店街振興組合が、街なか空間の管理・運営を行う事業者を商店街内の既存店舗から募り（単独またはグループ）、提案を受けた上で管理・運営を任せる手法



これらの検証と検討を受けて  
大街道商店街の市道空間に一年を通じて  
座り場「SWALOT」が設置  
(平成28年11月より設置開始)

